

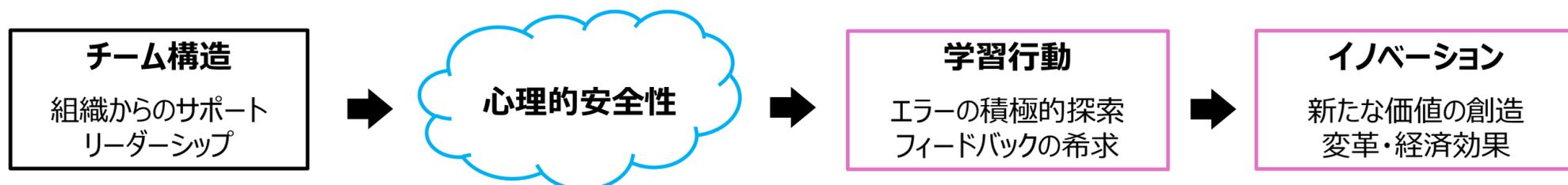
企業組織のイノベーションと心理的安全性

～天満屋におけるサード・プレイスとしての産学連携によるアプローチ～

岡山大学研究・イノベーション共創機構¹ 株式会社天満屋²
宮崎 悟¹ 山本 寛²

1. 心理的安全性のメカニズム

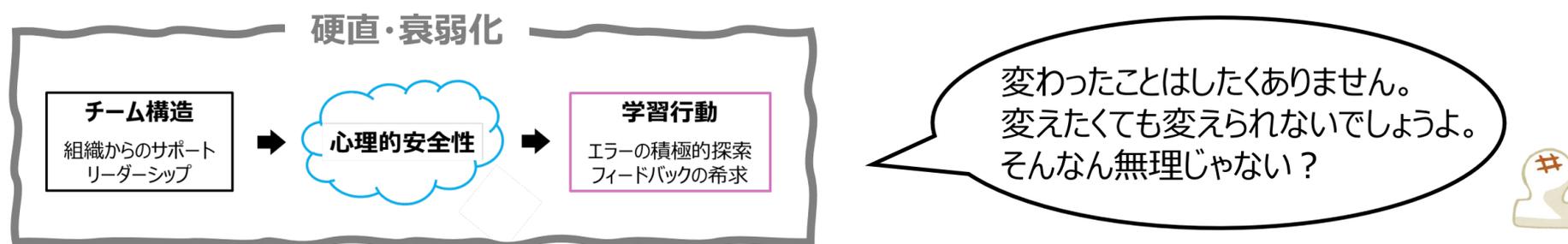
心理的安全性とは、“率直な意見、素朴な質問、違和感の指摘が、いつでも誰でも気兼ねなく言えるチームの雰囲気”をいう。(Edmondson,1999; 石井,2020)



(Edmondson,1999; Edmondson et al.,2014)

2. 心理的安全性が“絵に描いた餅”になる原因

組織内のチームは、自ら創り上げた構造を維持し、変化を忌避する心理的抵抗を本来的に有している。→“**集団の硬直・衰弱現象**”が起こり得る。(古川,1998)



3. “絵に描いた餅”を“餅”にするためのサード・プレイス

サード・プレイスとは、職場とは全く別の“**非公式な公共生活の中核的環境**”であり、“**集団学習を強化する特別の場**”である。(Oldenburg,2013)

→ 個人の自由意思に基づく行動としての**非公式性**は個人学習のモチベーションを促進するとともに、他者と関わり合う行動としての**公共性**は集団学習を促進する。

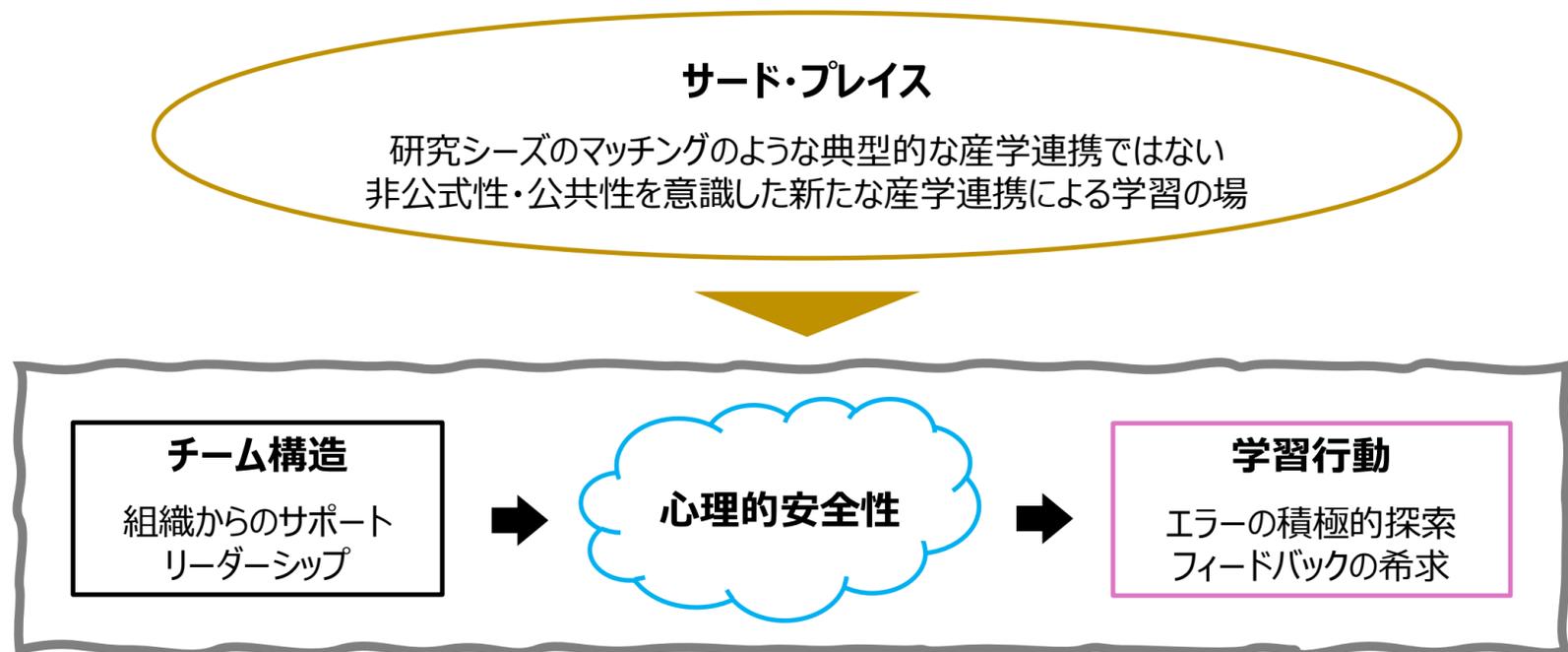
(Jeon et al.,2011; Callanan et al.,2011; Aldosemani et al.,2016)



硬直した組織全体のマクロ環境をわざわざ変えなくても、組織外から意図的にサード・プレイスを創り、チームに介入することで、チーム内で心理的安全性が機能するようなマイクロ環境を創り出すことができるのではないだろうか？
→ **産学連携**をサード・プレイスとして活用できるのではないか？



4. 理論的フレームワーク



5. 株式会社天満屋の事例（岡山市北区）

TENMAYA

創業195年の老舗百貨店であり、新たな地域価値創造に取り組んでいる。
2023年4月より岡山大学との産学連携の取り組みを開始し、現在に至る。



表町商店街の出店イベントにおいて、
マーケティング調査を産学共同で実施した。



天満屋社員が岡山大学受託研究員となり、
研究成果を産学連携学会で発表した。

- 従来の百貨店業態を超えた新規事業に取り組む地域連携部が2024年に設置され、共同研究者の社員が初代部長に就任した。
- 常務取締役が地域連携部の心理的安全性を許容している。

